

虫も夏バテ



東洋産業だより

Vol. 177
2018年10月号



酷暑に見舞われた夏が過ぎ、ようやく過ごしやすい気候になりました。今年も夏バテしたとの報告があります。例えば、皆様の周りで「蚊にあまり刺されなかった」と感じられた方もいらつしやるのではないのでしょうか。

東京で行われた蚊の捕獲調査では、昨年まで増え続けていた捕獲数が、今年は減少したそうです。蚊の代表種であるヒトスジシマカやアカイエカ、チカイエカなどは35度以上になると活動が鈍り、吸血する割合が大きく下がります。また、今年は梅雨が短く、暑い日が長く続いたため、幼虫が成長するのに十分な水場がなくなり、減少したとも考えられています。

人が熱中症になるように、虫も暑いと高温障害を起こす場合があります。図のように、虫にはそれぞれ活動できる温度、活動するに適した温度（最適温度）があります。例えば、生命力が強いイメージのあるクロゴキブリは最適温度が20〜32度であると言われ、これ以上の温度では活動が鈍くなります。また、温度の条件や虫の種類によつて、発育速度や生存率の低下、繁殖能力がなくなる等が引き起こされることもあります。

変温動物である虫は、自分で体温調整ができず、気温が高いと体温も高くなつてしまいます。特に飛ぶ虫は翅を動かすエネルギーが熱となり、体に溜まりまです。だから、気温の高い日中は太陽光などの影響も受けられないよう、日陰に身を潜めることが多いのです。

このように暑い時期に活発になると思われがちな虫たちは、実は暑さが苦手です。中には夏の暑さをしのぐために、「冬眠」ならぬ「夏眠」を行う虫もいます。今年、虫の数を少なく

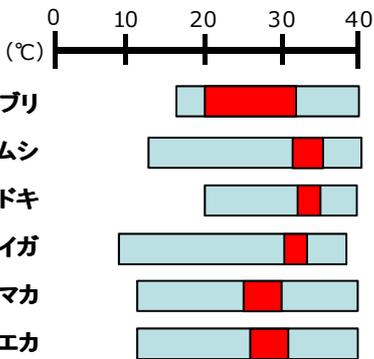


図 虫による活動の最適温度
(水色部：成育可能温度、赤色部：最適温度)

感じたのは、酷暑によつて、夏眠を行う虫が増えたからかもしれません。

蚊の被害も少しずつ耳にするようになってきました。今年もまだ防虫対策に油断は禁物です。気温が下がり、快適な秋は虫に取つても快適な時期でもありません。この時期、虫を発生させないことは来年の準備にもなります。気を抜かず、防虫対策を進めましょう。



蚊に刺されやすい人

蚊に刺されやすい人っていますよね。蚊は二酸化炭素や熱、乳酸の匂い（汗など）でエサを認識するため、体温の高い子供や妊婦、汗をかきやすい肥満体形の人などが蚊に刺されやすいと言われています。しかし、近年新たに、足の裏の常在菌の種類が多さによつて、蚊の刺されやすさが異なることが提唱され、実証されました。

これを発見したのは、男子高校生（当時）でした。彼は家族の中で妹が一番蚊に刺されやすいことに疑問を持ち、実験を行ったところ、蚊が特別に「妹の靴下」に反応を示していることに気づきました。この実験の中で、蚊は足の「臭さ」ではなく「常在菌数の多さ」に反応することが分かり、さらに特定の常在菌に反応するのではないかと推測されています。そのうち、蚊にとって「いいにおい」のする菌が特定されるかもしれません。

現状ではこれをヒントに、足首より下をアルコールで拭いて消毒すると、蚊に刺された数が3分の1になったという結果も出ています。また、足の裏を石鹸で洗ったり、新品の靴下に替えることも効果的だそうです。蚊に悩まされる時には、まさに「足元から」対策を行つてみてはいかがでしょうか。



東洋産業株式会社

本社 岡山市北区新屋敷町3-19-20

TEL 086-241-8080

FAX 086-241-8094

拠点 大阪・姫路・岡山・倉敷・福山・広島
高松・松山・金沢

www.to-yo-s.co.jp
(バックナンバー掲載中)